

利用区分別の規模（面積）の目標値について

目 次

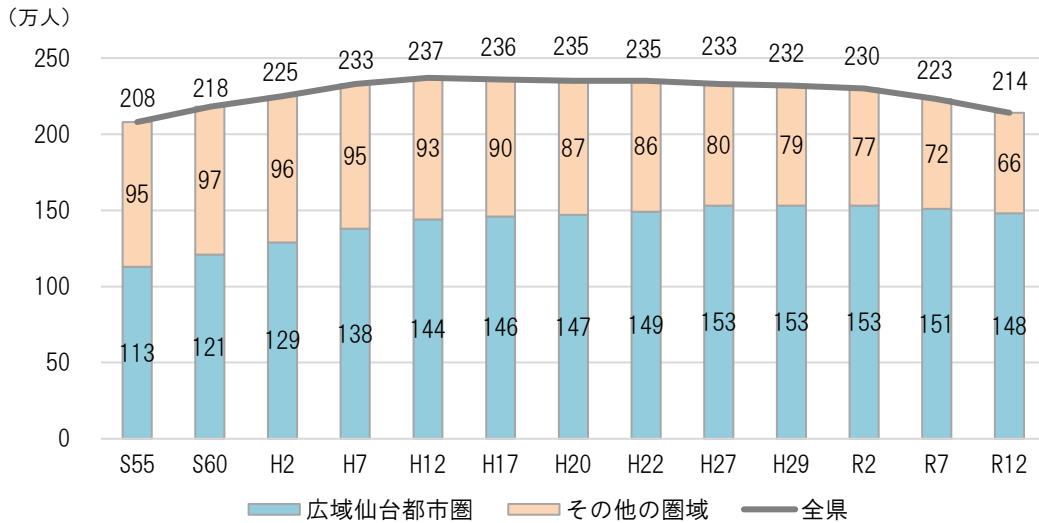
1	人口及び一般世帯数の推移等	
(1)	人口	1
(2)	世帯数の動向	1
2	主な利用区分別の規模（面積）の目標値設定の概要	
(1)	農地	2
(2)	森林	3
(3)	水面・河川・水路	4
(4)	道路	5
(5)	宅地	6
(5)－i	住宅地	7
(5)－ii	工業用地	8
(5)－iii	その他の宅地	8
(参考)	その他	9

1 人口及び一般世帯数の推移等

(1) 人口

本県の人口は平成 17 年から減少を続けており、基準年である平成 29 年から令和 12 年までに約 18 万人の人口が減少すると予測されている。

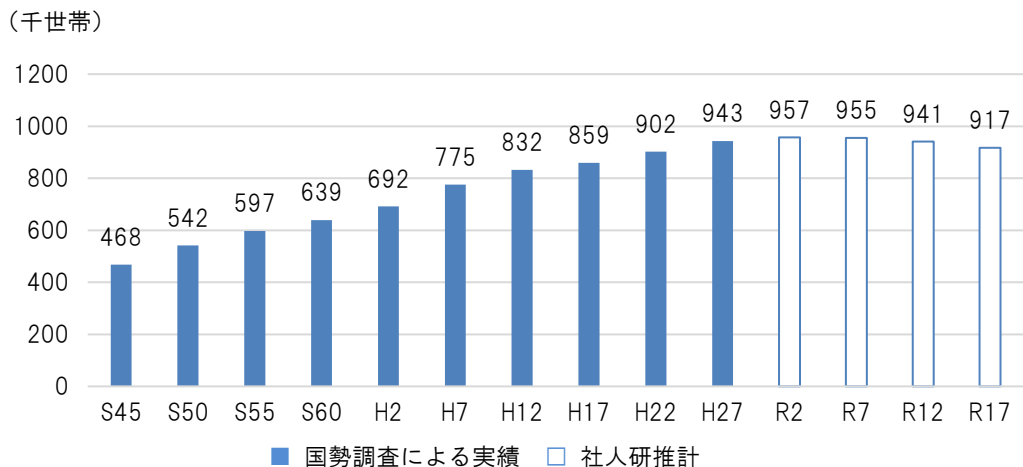
広域仙台都市圏における人口は令和 7 年から減少に転じるが、総人口に対する割合は増加する一方であり、その他の広域圏における人口との差が拡大している。



資料：総務省「国勢調査結果（各年 10 月 1 日現在）」、県統計課「推計人口統計年報（各年 10 月 1 日現在）」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年 3 月推計）」

(2) 世帯数の動向

本県の一般世帯数は増加傾向にあるが、令和 2 年以降は減少していくと予測されている。



資料：総務省「国勢調査結果（各年 10 月 1 日現在）」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）（平成 31 年 4 月推計）」

2 主な利用区分別の規模（面積）の目標値設定の概要

(1) 農地

基準値（平成 29 年）1,278k m²
 ↓ 88 k m²減少
 目標値（令和 13 年）1,189k m²

<設定方法>

平成 27～29 年に他の地目及び荒廃農地へ転換した年平均面積を算出し積上げ。

イ 田

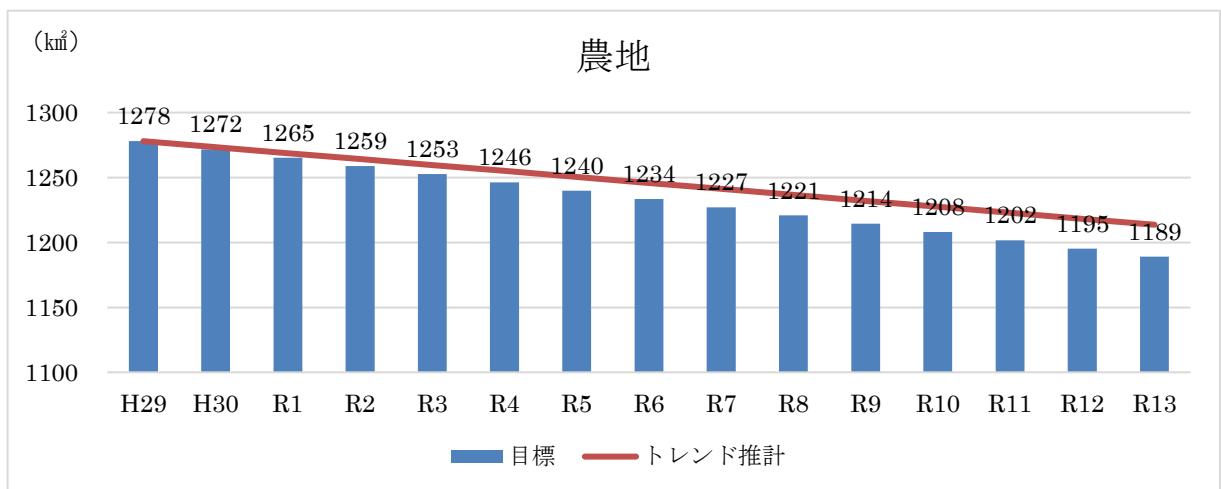
宅地等への転換	37 k m ² 減少	}	54 k m ² 減少
荒廃農地への転換	17 k m ² 減少		

ロ 畑

宅地等への転換	31 k m ² 減少	}	34 k m ² 減少
荒廃農地への転換	3 k m ² 減少		

ハ 農地全体

宅地等への転換	68 k m ² 減少	}	88 k m ² 減少
荒廃農地への転換	20 k m ² 減少		



（参考）現行第五次計画の目標値(R2)と現況値(H30)の比較
 計画よりも高い減少率で推移しており、既に目標値を超えている。
 【目標 1,286 k m² 現況 1,269 k m²】

(2) 森林

平成 29 年 4,161 k m²
↓ 29 k m²減少
令和 13 年 4,132 k m²

<設定方法>

現在計画されている林道開設及び開発事業の積み上げ。

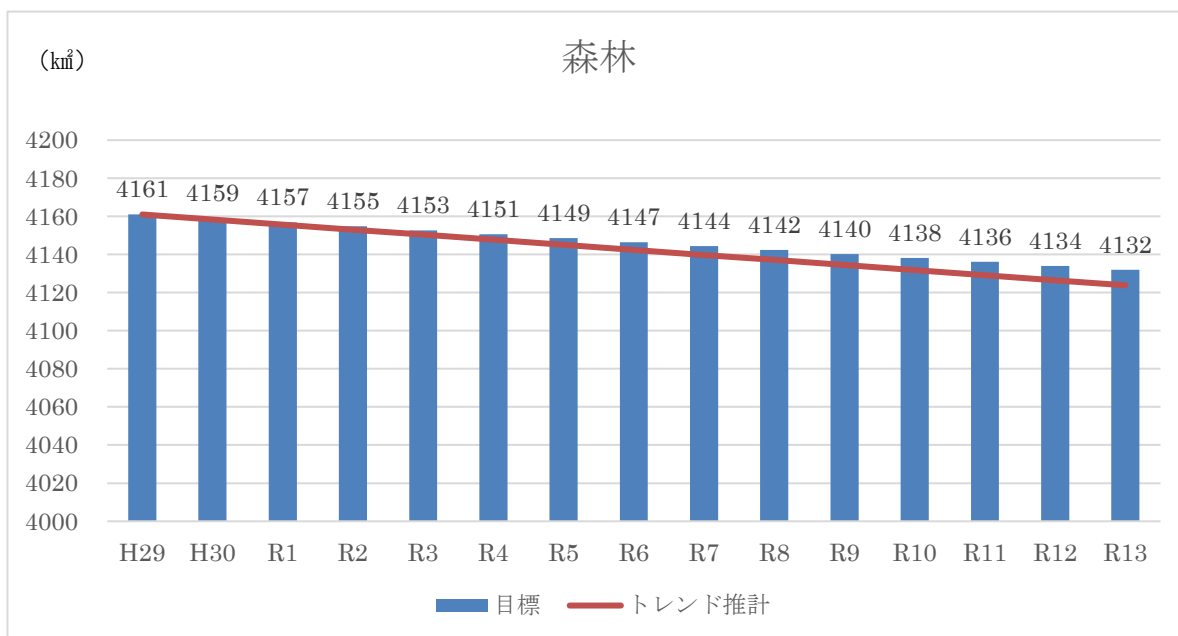
イ 国有林

官行造林地の返還，林道の敷設 13 k m²減少

ロ 民有林

宅地等への転換，林道の敷設等 28 k m²減少
官行造林地の返還 13 k m²増加 } 16 k m²**減少

ハ 森林全体 29 k m²減少



(参考) 現行第五次計画の目標値(R2)と現況値(H30)の比較
おおむね計画どおりに推移している。【目標 4,148 k m² 現況 4,143 k m²】

※ 端数処理の関係上，民有林の増加面積及び減少面積は合計面積と一致しない。

(3) 水面・河川・水路

平成 29 年 329 k m²
↓ 2k m²増加
令和 13 年 331 k m²

<設定方法>

- ・ダム造成事業等，具体的な事業計画。
- ・今後事業を実施するための用地買収面積。

イ 水面

農業用ため池等の新設があるが，ほぼ横ばい。

ロ 河川

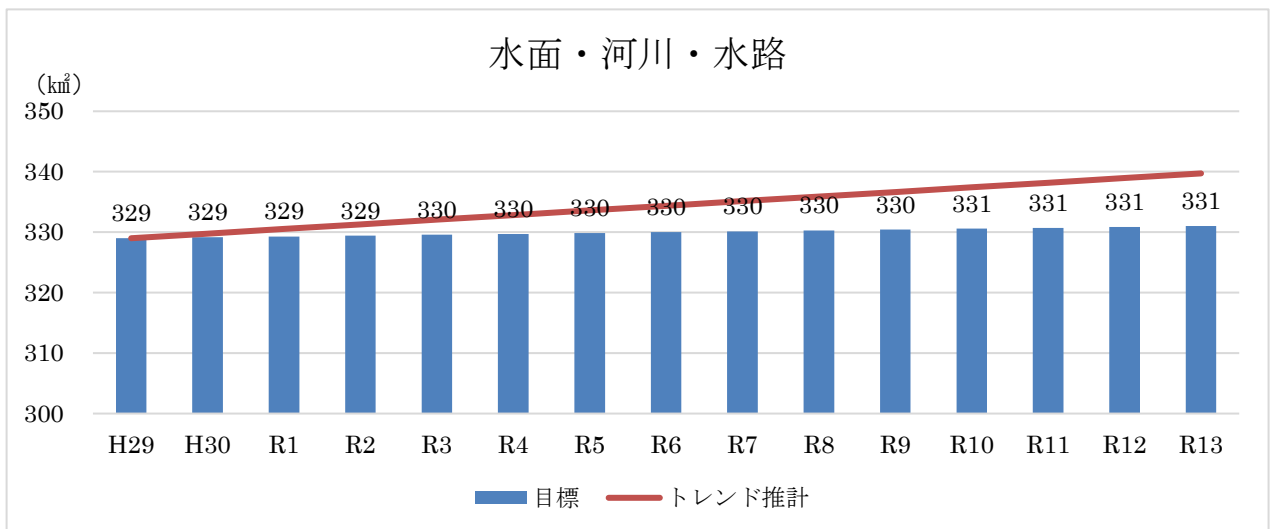
過去の河川整備事業による用地買収面積 0.3k m²増加

ハ 水路

ほ場整備計画 1 k m²増加

ニ 水面・河川・水路全体

2k m²*増加



(参考) 現行第五次計画の目標値(R2)と現況値(H30)の比較
計画よりもやや低い増加率で推移している。【目標 333k m² 現況 329k m²】

※ 端数処理の関係上，水面，河川及び水路の合計面積と一致しない。

(4) 道路

平成 29 年 335 k m²
↓ 19 k m²増加
令和 13 年 354 k m²

<設定方法>

- 道路敷設事業等，具体的な事業計画。
- 今後事業を実施するための用地買収実績。

イ 一般道路

事業計画の実施等 15 k m²増加

ロ 農道

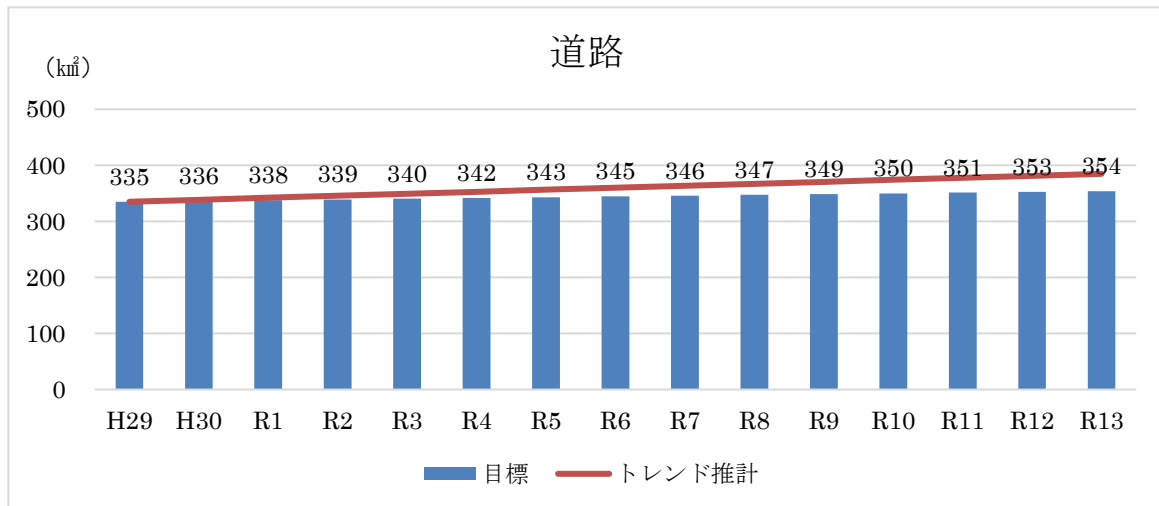
ほ場整備事業計画 1 k m²増加

ハ 林道

事業計画の実施等 2 k m²増加

二 道路全体

19 k m²*の増加



(参考) 現行第五次計画の目標値(R2)と現況値(H30)の比較

計画よりも高い増加率で推移しており，既に目標値を超えている。

【目標 334 k m² 現況 337 k m²】

※ 端数処理の関係上，一般道路，農道及び林道の合計面積と一致しない。

(5) 宅地

平成 29 年 479 km²

↓ 4 km²*増加

令和 13 年 483 km²

<設定方法>

・住宅地

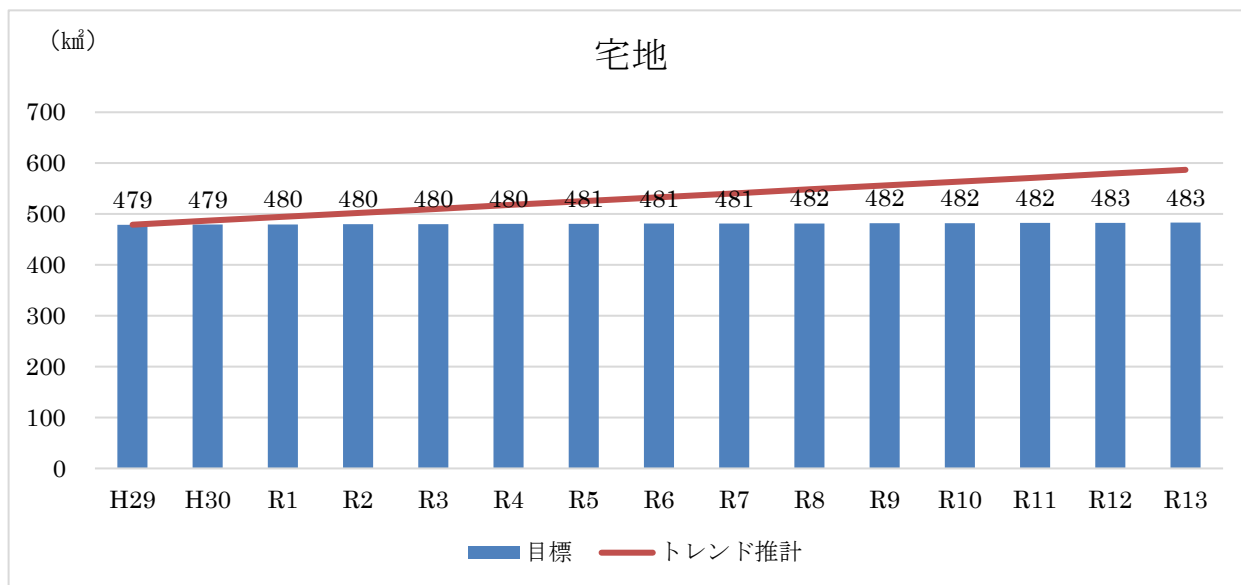
津波被害復旧関連による宅地造成計画及び都市計画マスタープランの整備計画の積み上げ。

・工業用地

事業計画が予定されていないことから変動なし。

・その他の宅地

都市計画マスタープランの商業用地開発予定面積の積み上げ。



(参考) 現行第五次計画の目標値(R2)と現況値(H30)の比較

計画よりも高い増加率で推移しており、既に目標値を超えている。

【目標 472 km² 現況 481 km²】

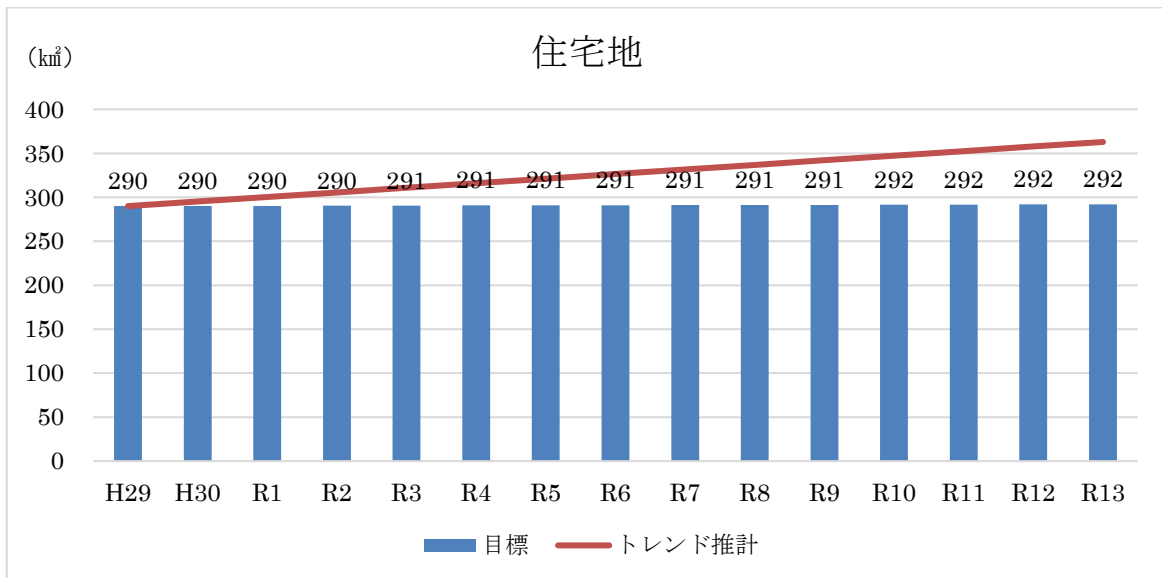
※ 端数処理の関係上、住宅地及びその他の宅地面積の合計面積と一致しない。

(5) - i 住宅地

平成 29 年 290k m²
↓ 2k m²増加
令和 13 年 292k m²

<設定方法>

- 津波被害復旧関連による宅地造成。
- 都市計画区域マスタープランの「住宅地」整備計画。



(参考) 現行第五次計画の目標値(R2)と現況値(H30)の比較
計画よりも高い増加率で推移しており、既に目標値を超えている。
【目標 282 k m² 現況 290 k m²】

(5) - ii 工業用地

平成 29 年 27k m²
↓ 増減なし
令和 13 年 27k m²

<設定方法>

現行計画ではほぼ変動がなく、事業計画も予定されていないことから変動なしとして設定。

(参考) 現行第五次計画の目標値(R2)と現況値(H30)の比較

基準年次からほぼ変動がなく、計画よりも低い増加率となっている。

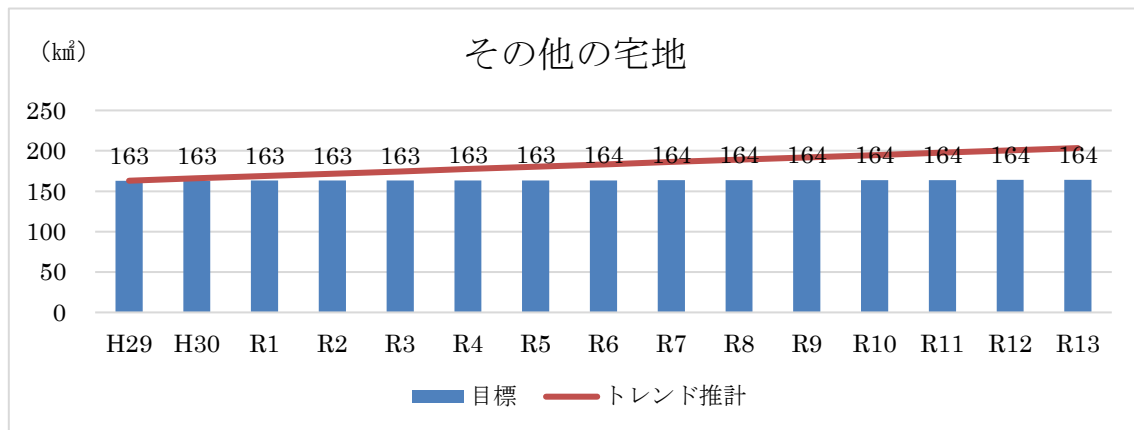
【目標 31k m² 現況 29k m²】

(5) - iii その他の宅地

平成 29 年 163k m²
↓ 1k m²増加
令和 13 年 164k m²

<設定方法>

都市計画区域マスタープランの商業用地開発計画面積の積上げ。



(参考) 現行第五次計画の目標値(R2)と現況値(H30)の比較

計画よりも高い増加率で推移しており、既に目標値を超えている。

【目標 159k m² 現況 163k m²】

(参考) その他

平成 29 年 663 k m²
↓ 95 k m²増加
令和 13 年 758k m²

<設定方法>

「その他」の面積は、県土面積の合計から「農地」「森林」「原野等」「水面・河川・水路」「道路」及び「宅地」の面積を差し引き算出。

具体的には、転換途上用地（未分譲の工業用地，未着工の道路，港湾等の用地ストック），定義上の把握漏れ（10ha 未満の天然湖沼，認定外道路等），その他（耕作放棄地，社寺境内）及び各利用区分についての統計資料の誤差である。

そのうち，太陽光発電施設の建設について，事業計画の積み上げにより算定。